

血液内科

診療スタッフ

部長 玉井洋太郎、佐藤淑

医員 鎌田渉、角田駿

診療概要

白血病を中心とした血液悪性疾患は、患者さんの生活習慣や遺伝などとは関係なく突然発症することが多く、症状も様々で患者さん自身が病気に気がつきづらいこともあり、突然やってくる病気に驚きと不安に襲われる患者さんがほとんどです。そのような状況の中、我々は血液疾患のスペシャリストとして患者さんの気持ちに寄り添うわかりやすい病状説明を心がけ、豊富な経験と正しい知識で精一杯、患者さん個々にあった治療選択を行っております。近年、血液領域における治療の進歩は目覚ましく、次々と新規薬剤が登場するにつれ、その治療方針も目まぐるしく変化していく状況となっています。最新の情報を元に、最良の治療を提供できるよう心掛けております。そのため、新薬に対する使用経験が多いことも当科の特徴です。外来化学療法に関しても、新薬を用いて安全にかつ簡便に行えることが多くなっています。特に患者さんがご高齢で強力な化学療法を受けることが困難でも、新薬の登場で以前より比較的長期間、外来通院で良好な状態を保つことができるようになっています。

血液疾患は全身が関わる疾患であることから、診療は我々血液内科だけではなく、様々な機関や他科との連携の上に成り立っています。緊急時は当院の救急総合診療科や総合内科、ICU/ECU、腎臓内科、外科等、他科と綿密に連携を取り、24時間365日、血液疾患に対応しています。加えて検査設備の充実により、初診から診断までを迅速に行い、治療につなげることができています。また、近隣の多くの先生方から患者様をご紹介いただいております。迅速に対応させていただいております。安定期に入った場合、病診連携に基づきかかりつけ医で管理いただき、緊急の場合や精査加療が必要な場合には再度ご紹介いただくなど、地域に根ざした医療を行う上で様々な診療機関と綿密に連携を

取っています。

当院は救急総合診療科を中心に断らない医療を全科体制で行っていることから、診断が付いていない症例から診断をつけ、治療選択をし、外来治療を継続して行う症例を数多く経験しています。また血液疾患のみならず、内科全般において広く研修した医師が診療しており、長年にわたって蓄積した経験と知識によって高度な医療を行っています。

遠方に行かなくても最新の治療が地元で行えること、そして診断から最後まで一貫性のある診療をさせていただくことを基本理念にしています。

診療実績

【学術論文】

1. Shurui Chen・Toru Kiguchi・Yasuyuki Nagata・Yotaro Tamai・Takeshi Ikeda・Ryoko Kajiya・Takaaki Ono・Daisuke Sugiyama・Hiroyoshi Nishikawa・Yoshiaki Akatsuka

A simple method to distinguish residual elotuzumab from monoclonal paraprotein in immunofixation assays for multiple myeloma patients

International Journal of Hematology

<http://doi.org/10.1007/s12185-021-03088-9>

2. Tomonori Nakazato, Masao Hagihara, Naohi Sahara, Yotaro Tamai, Ryuji Ishii, Shigehisa Tamaki, Atsushi Wake, Kenji Tajika, Rika Sasaki, Takeshi Kobayashi, Jian Hua, Morihiro Inoue, Yoshinobu Aisa, Shin Fujisawa, Koji Miyazaki, Seiji Irie, Masaaki Higashihara

Phase II clinical trial of personalized VCD-VTD

sequential therapy using the Vulnerable Elders

Survey-13 (VES-13) for transplant-ineligible patients

with newly diagnosed multiple myeloma

Annals of Hematology

<https://doi.org/10.1007/s00277-021-04592-y>

3. Shuku Sato, Eri Tanaka

Cardiac arrest following cardiac tamponade caused by

血液内科

mycosis fungoides malignant pericarditis

Clinical Case Reports

DOI:10.22541/au.161427183.36703705/v1

4. 奥村浩基,佐藤淑,鎌田渉,玉井洋太郎,心アミロイドーシスにおける予後予測因子の後方視的検討,臨床血液 62(2021):11 号 p.1576-1582

5. Shuku Sato,Toxic Epidermal Necrosis Induced Hemophagocytic Lymphohistocytosis

【学会発表】

1. 林亮佑,角田駿,鎌田渉,佐藤淑,玉井洋太郎,自己免疫性溶血性貧血の背景因子とアウトカムの検討,第 118 回 日本内科学会総会・講演会 医学生研修医の日本内科学会ことはじめ 2021

2. Shuku Sato,Shun Tsunoda,Wataru Kamata,and Yotaro Tamai,Retrospective analysis of efficacy and safety of eltrombopag for aplastic anemia over 60years-old patients,第 83 回 日本血液学会学術集会

3. 角田駿,鎌田渉,佐藤淑,玉井洋太郎,無輸血で寛解に至った後天性血友病 A,日本内科学会 第 673 回関東地方会

4. 内藤稜山,角田駿,鎌田渉,佐藤淑,玉井洋太郎,Dasatinib 内服下で急性転化した慢性骨髄性白血病の 1 例,日本内科学会 第 673 回関東地方会

その他の活動

なし

展望/抱負

日常診療だけでなく、国内外に情報を発信していける診療科を目指しています。